

本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について

杉村 泰

1. はじめに

本稿は本動詞「返る」と複合動詞「一返す」の意味の対応について、日本語教育文法の立場から論じたものである。斎藤(1985)は本動詞「返る」と複合動詞「一返す」の多義的意味について、次のように整理している。

・「返す」

<他動詞>

□ 物体の表裏の向きを逆にする。ex. 手のひらを返す。ラケットの面を返して打つ。

□ 対象を今までの方向とは反対の方向へ移動させる。

①物対象……物体を元の位置や所有者のもとへもどす。ex. 借りた本を返す。落し物を持ち主に返す。

②事柄対象……相手から受けた行為に対してこちらからも同じように働きかける。

ex. 挨拶を返す。恩を返す。

③人対象……元いたところへもどらせる〔「帰す」と表記〕。ex. 妻子を実家へ帰す。
遅くなつたので車で帰す。

□ 対象を変化以前の状態へもどす。ex. 問題を白紙に返す。自然を昔の状態に返す。

<自動詞>

□ 移動してきた方向へもどる。ex. 寄せては返す波。

(斎藤 1985:131)

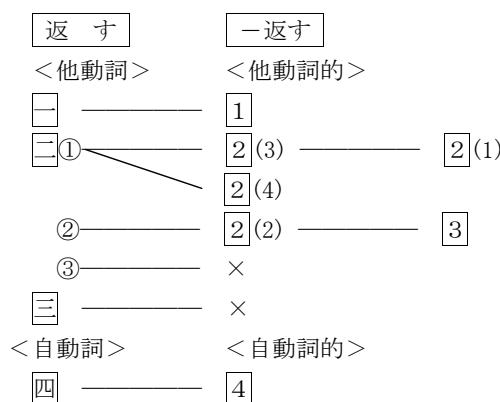
・「一返す」

<他動詞的>

- 1** 物体の表裏の向きを逆にする。ex. 鋤き返す(土を)掘り返す
- 2** ある方向への移動、働きかけに対して、それとは反対方向への移動、働きかけを行なう。
 - (1)反射、反動作用を表わす。ex. 照り返す(弾を)跳ね返す
 - (2)他者からの行為に対して、こちらからもそれに対応する行為を行なう。ex. どなり返す 笑い返す
 - (3)(こちらへ向かって来る事物にある作用を加え)移動方向を逆にする。ex. 追い返す 送り返す
 - (4)離れていく事物をこちら側へとひきもどす。ex. 奪い返す 呼び返す
- 3** もう一度(何度も)同じ動作、行為を行なう。ex. (答案を)見返す 読み返す
 - <自動詞的>
- 4** 移動してきた方向へもどる。ex. 引っ返す(波が)巻き返す

(斎藤 1985:130)

その上で、斎藤(1985)は両者に次のような対応があるとしている。(下の図は斎藤1985の表1と表2から抜粋)



また、森田(1989)は「一返す」の意味について次のように記述している。

「返す」は、対象に逆方向へと変わらる力を加え、もとあった状態へと戻す作用。そこ

本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について

から種々の意味が派生する。

分析 一 「かえす」は、向きを反対にする「ひっくり返す」「裏返す」こと。

折り返す、鋤き返す、掘り返す、混ぜ返す

なども、折ったり掘ったり作用を加えて、対象物の向きをひっくり返す動作。

二 「かえす」は、静止状態にある物だけでなく、移動・変化してくるものに対しても、そ

の方向を逆向きにして元へと戻す力として働く、その力は、

(1)向かってくる事柄の作用自体が、物理的に反射・反動作用を伴う。

照り返す、はね返す、はじき返す

(2)他者から向けられた言語行為などに対して、自己側から発する精神的行為。

言い返す、聞き返す、切り返す、問い合わせ、睨み返す、やり返す

(3)移動してくる物に対して肉体的力を加え、移動方向を逆にする(移動や動きを伴う動作動詞に付いて)。

追い返す、送り返す、押し返す、付き返す、突っ返す

(4)離れていく事物に対して、自己側へと戻す。

取り返す、引き返す、呼び返す

三 いったん静止状態になったものに逆方向への力が加わり、再び作用・変化が起

ることは“再度”“繰り返し”の状況設定に通じる。畑を掘り返したり、煮物を混ぜ返したりすることは、何度も繰り返し反転させる動作。「返す」行為・作用はB→Aへの働きをもう一度B←Aへと戻す再度意識である。

思い返す、(紙を)漉き返す、染め返す、煮返す、縫い返す、(息を)吹き返す、

(暑さが)ぶり返す、蒸し返す、盛り返す、読み返す

四 さらに、「捏ね返す、しきりに咳き返す」など「繰り返す」ことによって、再三再四、何回も起こる“激しさ”を強調し、“ひどく”的強調意識へと進んでいく。

ごった返す

(森田 1989:284-285)

以下、斎藤(1985)、森田(1989)の分類をもとにして、より体系的に分かりやすい分類を試みる。

2. 先行研究の問題点

斎藤(1985)の研究は、複合動詞「一返す」の多義構造を捉えるのに重要な役割を果たしている。しかし、本動詞「返る」と複合動詞「一返す」の対応について綿密に見ていくと、次のように対応する場合としない場合とがあることに気づく。

- (1) 畑の土を返す。 → 畑の土を掘り返す。
- (2) 手のひらを返す。 → *手のひらを向け返す。

(1)と(2)のような違いはとりわけ日本語教育において重要であり、「一返す」がどのような動詞と共に起するのかを記述しておく必要がある。

また、森田(1989)は「送り返す」を例として挙げているが、相手からお歳暮をもらったお礼にこちらからもお歳暮を送る場合、「お歳暮を送る」とも「お歳暮を返す」とも言えるのに、「お歳暮を送り返す」とは言えない。「お歳暮を送り返す」と言うと、送られてきたお歳暮を返却する(突き返す)という意味になる。このようなことは従来指摘されてこなかつたが、相手に物を返す場合にいつでも「一返す」が使えるわけではないことを記述しておく必要がある。

- (3) お歳暮を受け取らずに送り返した。
- (4) *お歳暮をもらったので、こちらからも送り返した。

斎藤(1985)は、2は「事柄対象」の「返す」と対応するもの、[2](4)は「物対象」の「返す」と対応するものとして区別している。確かに、「言い返す」と「取り返す」では言葉や物の移動の向きが逆になり、構文的にも「相手に」となるか「相手から」となるかという違いがあるため、分けて考えたほうが理解しやすい。

- (5) 悪口を相手に言い返す。(言葉:主体→相手)
- (6) 盗品を相手から取り返す。(物:主体←相手)

しかし、(5)も(6)も同じ「他者からの行為に対して、こちらからもそれに対応する行為を行なう」(斎藤 1985)という意味を表すため、両者はもう少し近い関係にあると考えられる。

また、森田(1989)は「取り返す」、「呼び返す」、「引き返す」を同じ「離れていく事物に対する、自己側へと戻す」ものに分類している。たしかにこの点では共通しているが、「取り返す」は相手にされたコトに対する仕返し、「呼び返す」は対象の移動、「引き返す」は主体自身の移動というように、何が戻されるのかという点で違いがある。したがって、これらの違いについても分かるような記述が必要となる。

本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について

結局、「一返す」の多義構造を把握するには、①反転物が「相手側に返っていく」のか「相手側から返ってくる」のかという視点と、②反転物が「コト」なのか「対象」なのか「主体」なのかという視点の二つが重要な要素になると考えられる。さらに本動詞「返す」との対応関係、「照り返す」、「(波が)寄せ返す」、「(風邪が)ぶり返す」のような無意志の「一返す」、および「繰り返す」、「読み返す」のような反復行為の「一返す」の位置付けを考えることが必要となる。

3. 本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応

本稿では斎藤(1985)や森田(1989)の記述をもとに、本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について下の表のように分類する。下の表では、同じ「物体の表裏の向きを逆にする」という意味を持つ本動詞「返す」でも、対応する複合動詞のある場合は①、ない場合は②というように分けて示してある。このようにすると、斎藤(1985)や森田(1989)に比べて分類の数が増えるが、「一返す」の多義構造が把握しやすくなるため、日本語教育にとっても有用であると考えられる。

表 本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の対応

本動詞「返す」	複合動詞「一返す」
①物の表裏を反転させる カードを表に <u>返す</u> 。掌を <u>返す</u> 。 (※ ひっくり返す、裏返す、覆す、翻す)	*カードを表に <u>向け返す</u> 。
②内部のものを表面に現す（耕す） 畑の土を <u>返す</u> 。 ズボンの裾を <u>返す</u> 。	①（掘り起こして）内部のものを表面に現す 畑の土を <u>掘り返す</u> 。（鋤きー、ほじくりー、 *耕しー） …「耕す=田返す」→「*田返し返す」 ズボンの裾を <u>折り返す</u> 。（*曲げー）
③元の状態に戻す 契約を白紙に <u>返す</u> 。汚れた川を元に <u>返す</u> 。	*契約を白紙に <u>戻し返す</u> 。（*洗いー）
④返却する 掘った土を穴に <u>返す</u> 。（戻す） お歳暮を（受け取らずに） <u>返す</u> 。 借金を <u>返す</u> 。	②～して返却する 掘った土を穴に <u>埋め返す</u> 。（埋め戻す） お歳暮を（受け取らずに） <u>送り返す</u> 。（突き ー） ?借金を <u>払い返す</u> 。

⑤返礼する、返信する（モノ対象） お歳暮（手紙）を <u>返す</u> 。恩（仇、恨み）を返す。	*お歳暮（手紙）を <u>送り返す</u> 。（*買い一、*報い一）
⑥相手から受けた行為に対して、それに応ずる行為をする（コト対象） 挨拶（言葉、視線、笑み）を <u>返す</u> 。 拳骨（蹴り、頭突き）を <u>返す</u> 。	③相手から受けた行為に対して、それに応ずる行為をする（コト対象） 悪口を <u>言い返す</u> 。（聞き一、見一、睨み一、笑い一） 相手の類を <u>殴り返す</u> 。（蹴り一、投げ一、切り一） 盗品を取り <u>返す</u> 。（奪い一、綱を引き一）
⑦（こちらに向かってくる物を）反転させる 飛んできた球を <u>返す</u> 。 *敵を <u>返す</u> 。	④（こちらに向かってくる物を）反転させる 飛んできた球を <u>はね返す</u> 。（はじき一、打ち一） ⑤（こちらに向かってくる人を）反転させる 敵を <u>追い返す</u> 。（射一、押し一）
*味方を <u>返す</u> 。（cf. 「帰す」） *日の光が <u>返す</u> 。	⑥（向こうに向かっていく人を）元来た方向へ戻す 味方を <u>呼び返す</u> 。（連れ一） ⑦反射する 日の光が <u>照り返す</u> 。
⑧（人が）元来た方向へ戻る 踵を <u>返す</u> 。歩みを <u>返す</u> 。身を <u>返す</u> 。	⑧（人が）元来た方向へ戻る 道を <u>引き返す</u> 。（折り一、辿り一）
⑨（自然現象が）元来た方向へ戻る 波が <u>返す</u> 。	⑨（自然現象が）元来た方向へ戻る 波が寄せ返す。風が吹き返す。
*勢力を <u>返す</u> 。	⑩（衰えた勢いを）元の好い状態に戻す 勢力を <u>盛り返す</u> 。（巻き一） (病気、天候、問題が)元の悪い状態に戻る (風邪がぶり返す)
*風邪が <u>返す</u> 。	
*失敗を <u>返す</u> 。	⑪もう一度（何度も）同じ行為をする（可逆） 失敗を <u>繰り返す</u> 。（思い一、読み一、見一、煮一）

本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について

?息を <u>返す</u> 。	*夕飯を <u>食べ返す</u> 。(*遊びー、*結婚しー) (不可逆) 息を吹き返す。前の問題を蒸し返す。
-----------------	---

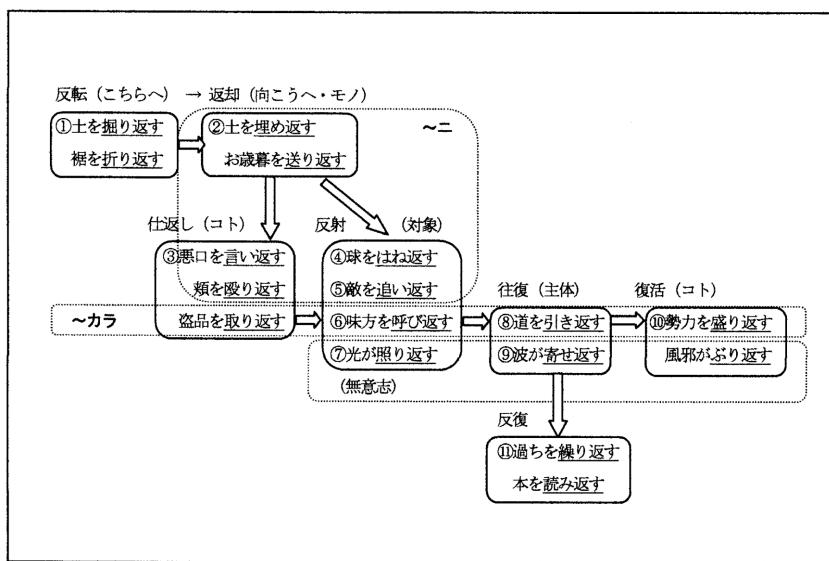
(考文中)「糸を縫い返す」は⑧の派生か?
「折り返し電話する」は⑧の派生か?

上の表に示すように、「お歳暮を送り返す」は送られてきたお歳暮がいらないから突き返すという意味で使われる。それを知らない日本語学習者が、相手からもらったお歳暮のお返しにこちらからもお歳暮を送る場合に、「お歳暮を送り返す」と言って誤解を招かないためにも、「一返す」にこのような制約のあることは記述しておくべきである。その他、「返す」と「一返す」の細かい用法については稿を改めて論じるつもりである。

4. 複合動詞「一返す」の多義構造

最後に、複合動詞「一返す」の多義構造について整理すると下の図のようになる。

図 「一返す」の多義構造



「一返す」はまず本動詞「返す」の基本義である「表裏反転」の意味を表す①の用法が最初に来る。ここから対象を相手側へと戻す②の用法が派生する。さらにここから相手にされたコトへの仕返しを表す③の用法と、対象を相手側へ反射する④～⑦の用法が派生する。このうち②、③の「言い返す」や「殴り返す」および④⑤は反転物が「相手側に返っていく」という点で共通する。一方、③の「取り返す」と⑥は反転物が「相手側から返ってくる」という点で共通する。次にこの「から」視点で共通するものを見ていくと、③の「取り返す」は相手にされたコトに対する仕返し、「呼び返す」は対象の移動、「引き返す」は主体の移動、⑩の「(劣勢から)盛り返す」は状況の復活(回復)というように、反転物の違いによって大きく4つに分けられる。さらに「一返す」には「(光が)照り返す」、「(波が)寄せ返す」、「(風邪が)ぶり返す」のように反射物がガ格をとる自動詞的なものがある。これらはちょうど⑥、⑧、⑩の「一返す」の用法に対応している。最後に、「一返す」には「繰り返す」や「読み返す」のように反復行為を表すものがあるが、これは往復運動を表す⑧や⑨からの派生として位置づけられる。

5. 今後の課題

先に(3)、(4)の例を挙げて「送り返す」は相手から送られたものを返却する意味になると述べたが、相手から受けた仕打ちに対する「仕返し」の場合なら、こちらから物を送る場合にも使える。

- (3) お歳暮を受け取らずに送り返した。
- (4) *お歳暮をもらったので、こちらからも送り返した。
- (7) 迷惑メールを送られたので、こちらからも迷惑メールを送り返した。

まだはつきりしたことは言えないが、どうも「一返す」は中立ないしはマイナスイメージの事柄に使われることが多いように思われる。「繰り返す」も「失敗を繰り返す」、「悲しみを繰り返す」、「落第を繰り返す」は言えるが、「?成功を繰り返す」、「?喜びを繰り返す」、「?合格を繰り返す」は言いにくい。「歴史を繰り返す」と言えば、幸せな歴史ではなく不幸な歴史と考えるのが普通である。このような「一返す」の持つイメージについても、今後の研究の課題となると思われる。

本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について

参考文献

- 斎藤倫明(1985) 「複合動詞後項の接辞化 一「返す」の場合を対象としてー」『國語學』140集, 國語學會, pp.132-120(左pp.1-13)
森田良行(1989) 『基礎日本語辭典』角川書店

[付記]

本研究は『財團法人 堀情報科学振興財団』の第15回堀情報科学振興財団研究助成(研究題目:「コンピュータアシストによる日本語文法解析とビジュアル日本語教材の開発に関する研究」)による研究成果の一部である。

